

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2023年12月分)

2024年1月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[BH裁判所長等の逮捕\(19日\)](#)

●[シュミット上級代表によるボン・パワー行使可能性の予告\(19日\)](#)

●[選挙法改正案の審議\(29日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[サラエボ市の大気汚染、世界最悪レベル\(21日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

●[ドディックRS大統領に対する裁判\(6日、21日\)](#)

●[RS不逮捕特権法及びRS住民投票法の採択手続き\(22日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[EU・西バルカン・サミット\(13日\)](#)

●[欧州理事会の開催\(14～15日\)](#)

(2) 二国間関係

●[米国による元OSA長官等に対する追加制裁\(11日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[ユニカ・ミノルタ創業150周年記念行事兼BH新事務所開所式典\(7日\)](#)

●[ジェナン・シュタ氏に対する外務大臣表彰授与式\(19日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

(3) 経済協力

(4) 民間セクター

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●BH裁判所長等の逮捕(19日)

19日、BH国家捜査・保護庁(SIPA)は、デベベツBH裁判所長及びメフメダギッチ前BH情報・治安庁(OSA)長官を汚職容疑で逮捕した。両名は1ヶ月間収監される見込み。BH裁判所はデベベツ裁判所長の逮捕を受けて同人の職務を停止させ、クレホ判事を職務代行者に任命した。

●シュミット上級代表によるボン・パワー行使可能性の予告(19日)

19日、シュミット上級代表は記者発表を実施し、2024年の地方選挙に向け、選挙不正を防止するための選挙法の技術的改正がBH議会で年内に行われない場合はボン・パワーを行使すると発言した。

これを受け、チョービッチHDZ党首は、選挙改革においてはまず、「正当代表」の選出がプライオリティであるとして、政治的問題の解決なしに技術的改正をすることは容認できないと反発した。ボシュニャク系を中心とする3与党は共同声明を発表し、シュミット上級代表の発言は最後通告であるとして、国内政治家に合意形成を呼び掛けた。また、ドディックRS大統領は、シュミット上級代表がボン・パワーを行使した場合、RS独自の選挙管理委員会を立ち上げると発言した。

●選挙法改正案の審議(29日)

29日、BH下院において、SDA発案によるBH選挙法の技術的改正案についての審議が実施され、賛成24、反対9で可決した。反対したのはRS与党及びHDZの議員。本改正案は、今後BH上院で採択に係る審議及び投票が実施される予定。

(2) エンティティ、特別区

ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●サラエボ市の大気汚染、世界最悪レベル(21日)

12月に入り、サラエボ市内は大気の状態が悪化しており、特に19日以降は汚染が深刻なレベルに達した。20日朝のサラエボの大気質指数(AQI)は、ダッカ、ニューデリーを上回る235、21日にはラホール(200)を上回る240に達した。ウク・サラエボ・カントン首相は、大気汚染には盆地であるとの地理的要素、ボイラー、古い自動車といった複合的な要因があり、問題の解決は時間を要することが見込まれ、現カントン政府の任期が終わる2026年までの解決は不可能との見方を示した。

イ スルブスカ共和国(RS)

●ドディックRS大統領に対する裁判(6日、21日)

6日、ドディックRS大統領に対する第二回の審理が実施されたが、被告側が裁判をバニャ・ルカで実施するよう要請し却下されたことに対し、異議申し立ての意向を示したため中断し、20日に延期となった。その後、ドディック側より改めて異議が申し立てられたもののそれも却下となり、20日に裁判が再開されたが、ドディック側が本件の担当検事の正当性に疑義を示し、全員の交代を要請したことから、審理はさらに延期となった。

●RS不逮捕特権法及びRS住民投票法の採択手続き(22日)

22日、RS国民議会において、RS不逮捕特権法及びRS住民投票法が第一読会にて承認された。RS不逮捕特権法はRS大統領、RS首相及び閣僚、RS国民議会及びRS民族院の議員に対して不逮捕特権を認定し、遡及

効により、シュミット上級代表のボン・パワー行使による法改正等を受けて刑罰を受けることとなったRS公人に対し、刑罰の免除と、捜査及び訴追の対象外とすることを規定している。

RS住民投票法(新法)は、現行法では住民投票の投票率が50%に満たない場合は結果を無効とする規定となっていて、投票率にかかわらず結果を有効とする旨定めるもの。

両法は、30日間の公聴会を経て採択に向けた審議が行われる予定。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●EU・BHハイレベル政治会合(5～6日)

5～6日、クリシュト閣僚評議会議長をヘッドとし、コナコビッチ外相、ドディックRS大統領、両エンティティ首相、各カントン首相、ブルチュコ市長等を含む40名規模のBH代表団がブリュッセルを訪問し、第二回EU・BHハイレベル政治会合が実施された。EU側はヴァールヘイ欧州委員をヘッドとし、会合では欧州委員会の11月の勧告に従ったBH側の改革の重要性が確認された。

●EU・西バルカン・サミット(13日)

13日、ブリュッセルにおいてEU・西バルカン・サミットが開催され、BHからはコムシッチ大統領評議会議長が出席した。会合ではコソボ問題、北マケドニア・ブルガリア関係等の解決、統一地域市場の創設等を含む35の項目からなる結論文書が採択された。

コムシッチ議長は会合でのスピーチにおいて、BH側の改革努力が不十分である点を指摘し、欧州人権裁判所の判決履行の必要性を強調すると共に、EU側も「欧州基準」への適合が市民に与える感情的な印象等を見捨てるべきではないと述べた。

●欧州理事会の開催(14～15日)

14日～15日、欧州理事会会合が開催され、ウクライナ及びモルドバのEU加盟交渉開始、及びジョージアへのEU加盟候補国の地位付与が決定された。他方、BHは11月8日の欧州委員会の勧告通り、来年3月の欧州理事会までの改革の達成状況により判断すると決定。

これに対し、クリシュトBH閣僚評議会議長はミシェル欧州理事会議長へ書簡を送付し、BHが重ねてきた努力及びその成果が正しく認められなかったことは残念であると述べた。

(2) 二国間関係

●米国による元OSA長官等に対する追加制裁(11日)

11日、米国国務省は、メフメダギッチ・BH情報・治安庁(OSA)前長官及びカイマコビッチBH検察元検事に対する追加の制裁を発表した。同二名は犯罪組織との協力関係及び職権の個人的利益への濫用といった汚職の疑いにより既に米国の経済制裁の対象となっているが、今後はそれに加えて米国への入国禁止措置等がとられることとなる。

(3) 日・BH関係

●コニカ・ミノルタ創業150周年記念行事 兼BH新事務所開所式典(7日)

7日、杵渚駐BH日本国大使は、サラエボ市においてコニカ・ミノルタ創業150周年記念行事兼同社BH新事務所開所式典に出席した。コニカ・ミノルタ社は2006年よりBHでビジネスを展開し、今次、最新印刷機のショールームも兼ねた新事務所をサラエボ市に開所した。

杵渚大使は、日本の近代化の歴史と共に歩んできたコニカ・ミノルタ社のBHにおける更なる成功を祈念し、新事務所開設に係る祝意を伝達した。



(写真: 式典の様子)

●ジェナン・シュタ氏に対する外務大臣表彰授与式(19日)

19日、杵渚駐BH日本国大使は、モスタル市スポーツ協会のジェナン・シュタ上級マネージャーに対し、令和5年度外務大臣表彰の賞状を授与した。同氏は、本邦においてJICAが実施した体育教育に関する研修に参加し、BH初の日本式運動会(「UNDOKAI」)開催に尽力し、その後も民族やハンディキャップにかかわらず参加できるイベントとして継続しているほか、宮本恒靖・日本サッカー協会専務理事の設立したスポーツアカデミー「マリ・モスト」のエグゼクティブ・ディレクターも務めている。



(写真: 杵渚大使とジェナン・シュタ氏)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

●産業生産指数

2023年11月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比2.5%のマイナス。また、前年同月比11.1%のマイナス。

●雇用／失業率

2023年10月の失業者登録数は34万6051人(うち女性20万2,252人)で、前月比で0.2%マイナス、前年同月比で3.2%マイナス。

●平均給与

2023年10月の平均給与(手取り)は1,285KMで、前年同月比で11.1%のプラス。

●消費者物価数

2023年11月の消費者物価指数は前月比で0.1%のマイナス。また、前年同月比で平均1.7%の上昇。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比変動なし。

●貿易収支

2023年1月～11月のBHからの輸出総額は150.478億KM(前年同期比6.6%減)、BHへの輸入総額は250.493億KM(前年同期比2.6%減)。貿易収支は101.5億KMの赤字。

●10月の観光客数、前年比15.2%増加

BH統計局によれば、2023年10月にBHを訪れた観光客数は、前年同月比15.2%の増加。外国人旅行客の出身国は、上位からクロアチア(15%)、セルビア(11.3%)、スロベニア(9.8%)、トルコ(9.3%)、ドイツ(5.1%)、米国(4.2%)、中国(3.5%)、オーストリア(3%)。

(2) 経済政策・公共事業

●2023年1～9月の対BH外国直接投資額、ロシアが1位

BH中央銀行の統計によれば、2023年1～9月の対BH外国直接投資総額は14億KM(前年同期比+23.9%)。投資額第一位となったのはロシア(3.12億KM)。ウクライナ侵略による諸外国の対露制裁を回避する形でBHへの投資額が増加したとみられる。

二位以降の投資国は順にオランダ(1.66億KM)、クロアチア(1.65億KM)、英国(1.63億KM)、トルコ(1.29億KM)、ドイツ(9230万KM)、オーストリア(7980万KM)、スロベニア(6530万KM)、イタリア(6000万KM)、セルビア(5170万KM)。

(3) 経済協力

●サラエボ市トラム新車両の到着(15日)

14日、サラエボ市がEBRDの融資により調達したトラムの新車両15台がサラエボに到着した。残る14台は2024年の夏までに到着予定。同車両はスイス・シュタッドラー製であり、2021年に購入に係る契約への署名が行われた。新車両は3両編成で79座席、最大収容旅客数180人であり、最高時速70キロ。空調、無線インターネット、USBポート等の設備を備えている。試験走行後、実際の運用が始まる予定。

(4) 民間セクター

●ハンガリー企業によるセメント生産企業の買収(27日)

26日、ハンガリーの Talentis International Construction Instruments 社は、オーストリアの Asamer Baustoffe 社よりルカバツ(BH連邦、トゥズラ・カントン)に所在するルカバツ・セメント工場の資本を100%買収した。ルカバツ・セメント工場は国営として1974年に開設され、

のちに民営化。2000年代に成長し、BH国内ではトップのセメント生産企業となった。

Talentis 社のオーナーであるメサーロシュ氏は、オルバーン・ハンガリー首相に近い人物として知られる。